

院内調剤内規

第1版 2016年7月

第2版 2023年7月改訂

加古川中央市民病院

医薬品の取扱いについて

[1] 処方箋記載

①内服薬は 1回量と1日量を併記、投与日数を記載する

Rp1. カロナール錠(200mg) 6錠
1回2錠 (1日 6錠)
3×毎食後 7日分

Rp2. アレビアチン散10%(100mg/g) 300mg
1回100mg (1日300mg) 【原薬量】
3×毎食後 7日分

②頓服薬(内服)は1回量と回数、用法を記載する

Rp3. ジクロフェナク錠(25mg) 2錠
疼痛時 5回分

③隔日服用の場合は、服用実日数を記載する

Rp4. プレドニン錠(5mg) 1錠
1×朝食後 14日分 隔日服用(1日おき) *14日分調剤(28日間で服用)

Rp5. ワーファリン錠(1mg) 1錠
ワーファリン錠(0.5mg) 1錠
1×朝食後 (隔日) 14日分
Rp6. ワーファリン錠(1mg) 1錠
ワーファリン錠(0.5mg) 1.5錠
1×朝食後 (隔日) 14日分

*Rp5とRp6を隔日服用(28日間で服用)

④外用薬は、総量を記載する

Rp7. ジクロフェナクサポ(25mg) 30個
1回1個、1日2回まで

*使用方法はコメント欄を使用して記載する

[2] 単位

「g」・・・・・・・・・・「製剤量・秤量単位」

Rp8. マーズレンS配合顆粒(1包0.5g) 1.5g
3×毎食後 14日分 *21g秤量

「mg」・・・・・・・・・・「成分量」

Rp9. セフカペンピボキシル細粒(100mg/g) 100mg
3×毎食後 7日分 *7g秤量

[3] 調剤

A. 内用薬

1. 錠剤・カプセル剤

1) 原則として処方箋の記載通りの剤型で、可能な限りヒートシール調剤とする。

2) 服用回数で割り切れない場合は、個数の配分を指示する。

Rp10. (5mg) プレドニン錠 5mg 4錠
0-2-1-1-0-0 で投与
朝：2錠
昼：1錠
夕：1錠 (1日4錠)
3×毎食後 7日分

3) 半錠・1/4錠にしたものを分包する。

Rp 11. テルミサルタン錠 (40mg) 0.5錠
1×朝食後 14日分

4) 半錠、1/4錠を含む不均等の場合は整数錠も含めて分包する。

Rp12. マドパー錠 4錠
0-1.5-1.5-1-0-0 で投与
朝：1.5錠
昼：1.5錠
夕：1錠 (1日4錠)
3×毎食後 30日分 *1包化で調剤

・整数錠のみの不均等の場合はヒートにて調剤する。

Rp13. プレドニン 5mg錠 6錠
0-1-2-3-0-0 で投与
朝：1錠
昼：2錠
夕：3錠 (1日6錠)
3×毎食後 10日分 *ヒートで調剤

Rp14. ハーフジゴキシン KY0.125 0.5錠
フロセミド錠 20mg 1錠
スピロラクトン A錠 25mg 1錠
1×朝食後 14日 *1包と各1錠で調剤

5) 「1包化」の指示がある場合、

処方日数と用法が同じ場合、Rpを越えて服用時間が同じ薬剤を1包化する。

Rp15. ロキソプロフェン錠 60mg 3錠 3×毎食後 5日
Rp16. ファモチジン D錠 20mg 2錠 2×朝夕食後 5日 *Rp15と16を1包化
Rp17. パルサルタン 40mg 1錠 1×朝食後 10日 Rp17は単独で1包化

6) 2規格採用がある薬剤については、
規格の大きい薬剤は薬剤名の前に規格を表記する。

- ・ランソプラゾール OD錠【15 mg】
- ・【30 mg】ランソプラゾール OD錠

3 規格の薬品の場合

- ・カルベジロール 【1.25 mg】
- ・カルベジロール 【2.5 mg】
- ・【10 mg】カルベジロール

7) 他の薬とは薬袋を別にする薬剤

- ・下剤
- ・麻薬
- ・抗がん薬
- ・免疫抑制薬
- ・抗ウイルス薬
- ・覚せい剤原料 例) エフピー
- ・睡眠薬
- ・頓服薬
- ・品質上(吸湿、遮光等)バラ錠に出来ない薬剤 例) アスパラカリウム

2. 散剤

1)ジゴシンの成分量で1日0.1mg未満の場合は5000倍散(約束処方項参照)を使用する。

2) 散剤は、できる限りヒートシールを優先して調剤する。

Rp18 ベリチーム配合顆粒 9.0g

3×毎食後 30日

*ヒートを使用して“1日3回 1回3包”

(当院採用薬)

- ・マーズレンS配合顆粒(1包0.5g)
- ・シナール配合顆粒(1包1g)
- ・ベリチーム配合顆粒(1包1g)
- ・テプレノン細粒10% 50mg/g (1包0.5g)
- ・ラックビー微粒N(1包1g)
- ・トリノシン顆粒10%(1包1g)
- ・ビオフェルミンR散(1包1g)
- ・ミヤBM細粒(1包1g)
- ・スクラルファート細粒(1包1g)

3) 同一処方に2種以上の散剤処方がある場合、秤量の必要がある薬剤のみを秤量する。

Rp19. ベリチーム配合顆粒 3.0g

フェノバル散 10% 1.2g

3×毎食後 10日

*ベリチーム配合顆粒はヒート
フェノバル散 10%は秤量
“1回各1包”

Rp20. ベリチーム配合顆粒 1.5g
3×毎食後 10日

*計量して“1回1包”
当院は1g ヒートのみ採用

4) 散剤の不均等配の場合

Rp21. プレドニゾロン散 10mg
0-6-4-0-0-0 で投与
朝：6mg
昼：4mg (1日10mg) 【原薬量】
2×朝昼食後 7日分

*朝、昼の区別をつけ、薬包に用法を印字、
薬袋を分ける。

- ★散剤の中に錠剤は入れない(錠散1包化はしない)。
- ★配合不可の薬品 (調剤指針に従う)
 - ・配合により湿潤または、効果の減ずる恐れのある場合は、組み合わせ散剤とする。
- ★賦形
 - ・1包が0.1g未満の時は、適当な賦形剤を0.1g加える。
 - ・ドライシロップには賦形剤を加えない。
 - ・賦形には通常、乳糖を使用し、薬品名と賦形剤名(乳糖0.1g)を薬包紙に印字する。
ただし、イスコチンはバレイシヨデンブンで賦形する。
 - ・乳糖アレルギーのDrコメントがある場合は、白糖で賦形する。
 - ・賦形剤と均一に混ざらない顆粒剤(ダイフェン顆粒・セレニカR等)には賦形剤を加えない。

3. 錠剤の粉砕・・・「錠剤・カプセル剤 粉砕ハンドブック」を基にする。

- ・簡易懸濁が適応されない場合

Rp22. フルイトラン錠 2mg 1錠
1回1錠 (1日1錠)
粉砕してください
1×朝食後 10日分

- ・錠剤が半錠もしくは4分の1錠以外の処方

Rp23. フルイトラン錠 2mg 0.3錠
1回0.3錠 (1日0.3錠)
1×朝食後 10日分
全て粉砕してください

*コメントの選び方で
上記か左記の記載になります

- ・半錠で処方されているが均一に割ることができない錠剤の場合
- ・光により分解するものや、吸湿性の大きい薬剤はアルミ袋、チャック付ビニール袋(乾燥剤)に入れる。
- ・カプセルは一回量がカプセル単位になるものは服用時開封する。
- ・口腔内崩壊錠は服用時溶解する。
- ・同成分で散剤が採用されている場合には処方の変更を提案する。

3. 水剤

1) 単剤の水剤の場合

薬杯に一回量を表示し、原液で調剤する。

※小児科処方で厳密に量り取る場合は、シリンジやスポイト等を添付し一回量を表示する。

2) 2種類以上の水剤を混合する場合

1回量は1目盛りとし、以下の通りに精製水等で希釈して調剤する。

成人（15歳以上）は1日100mlに希釈（頓用又は1日1回の場合は1回33mlに希釈）する。

小児科。耳鼻咽喉科とこれ以外の診療科の15歳未満は2倍の体積に最も近い目盛りに希釈する。

3) アヘンチンキを含む処方では1回量を1目盛りとし、2倍の体積に最も近い目盛りに希釈する。

4) 希釈水剤は原則として7日分以内とする。

水剤が7日以上処方された場合は、7日分迄は精製水等で目盛り合わせをする。

それ以上は原液で調剤する。

希釈薬剤は赤字でNo1. 原液はNo2. (希釈の仕方を明記)と表示する。

5) 内用液剤には防腐剤は添加しない。

4. 冷所表記

1) 冷所保存薬剤

(例アンヒバ坐薬、コリナコール点眼液)

2) 水で希釈した場合

⇒薬品情報提供用紙に「冷所保存」と記載する。

5. 約束処方

①アセモトール(外用薬)

| | | |
|-----|-------|--------|
| Rp | サリチル酸 | 0.5 g |
| | ミョウバン | 1.0 g |
| | 酸化亜鉛 | 7.0 g |
| | タルク | 7.0 g |
| (局) | エタノール | 10.0mL |
| | グリセリン | 4.0mL |
| | ハッカ油 | 0.1mL |

精製水を加えて 全量100mL

1. 酸化亜鉛、タルクを秤量し、50メッシュで篩過する。
2. これらを乳鉢に入れ、秤量したミョウバンを精製水に溶かしたものを、乳鉢に一気に加え混和する。(クリーム状)
3. グリセリンを精製水に溶かしたものを徐々に加え、塊がないように十分に混和する。
4. エタノール、サリチル酸、ハッカ油を秤量し、乳鉢に加え混和する。
5. 精製水を加えて混和し、全量を100mLとする。

②止痒水(外用薬)

| | | |
|----|-----------|---------|
| Rp | (局) エタノール | 180mL |
| | グリセリン | 12.5mL |
| | ハッカ油 | 6mL |
| | | <hr/> |
| | 精製水を加えて | 全量500mL |

③ジゴシン5000倍散

赤色着色乳糖 (0.1%) を作ってからそれぞれを9.0 g 測り、ふるい (30号 500 μ m) にかけてながらジゴシン散0.1%、乳糖水和原末を混合する。

赤色着色乳糖 (0.1%)

| | | |
|----|--------------|--------|
| Rp | 食用赤色 2 号 | 0.05g |
| | 乳糖水和物原末 (粒状) | 49.95g |
| | | <hr/> |
| | 全量 | 50.0g |

| | | |
|----|---------------|-------|
| Rp | 赤色着色乳糖 (0.1%) | 9.0g |
| | ジゴシン散0.1% | 12.0g |
| | 乳糖水和物原末 (粒状) | 39.0g |
| | | <hr/> |
| | 全量 | 60.0g |

④キシロカインうがい液100ml

| | | |
|----|-------------------|-------|
| Rp | キシロカインビスカス | 20ml |
| | | <hr/> |
| | 精製水を加えて全量100mlにする | |

<貯法・使用期限：室温保存>

⑤アズノール含嗽水500ml

| | | |
|----|-------------|-------|
| Rp | アズノールうがい液4% | 1ml |
| | 4%キシロカイン液 | 5ml |
| | | <hr/> |

精製水を加えて全量500mlにする

<貯法・使用期限：退色するため使用期限は7日、室温保存>